

子供たちに伝えたい日本のよさ

－ 伝統的に良好な関係！（ポーランドと日本） －

☆日本祭り

ポーランドの首都ワルシャワで、平成27年（2015年）5月30日（土）に開催された「第3回日本祭り」では、17,000人以上の観客が訪れ、日本文化の伝統と現代の両面に触れながら、本格的な祭りの雰囲気を楽しみました。ステージでは、太鼓の演奏、武道、能、邦楽、J-POPコンサートなどが演じられました。また、日本の伝統・文化を体験できるブースでは、書道、着付け、武道、折り紙、盆栽、各手工芸、将棋、囲碁、けん玉、そろばんなどを体験することができ、日本食を味わえる日本食コーナーも出展されました。祭りのフィナーレには、参加者が輪になって伝統的な日本の盆踊りを踊りました。



☆日本語を学ぶ多くの人

ポーランドでは、4つの国立大学に在籍する約500名の日本語専攻の学生に加え、約50の学校・機関を合わせて、約4,000名が日本語を学習しています。また、各大学の日本語学科入試競争率は20～30倍の難関で、日本語を専攻する国費留学生（日研生）の数は平成26年（2014年）には世界最多となりました。

☆盛んな日本の武道

空手、柔道、相撲、合気道、剣道など日本の武道が盛んで、国内各地に道場があります。特に、空手は31,000人の競技人口を誇り、サッカーに続いて第2位の人気スポーツです（平成25年統計）。

※『「第3回日本祭り」の開催』（在ポーランド日本大使館ホームページ http://www.pl.emb-japan.go.jp/kultura/i_20150530.html）及び「ポーランド共和国基礎データ」（外務省ホームページ <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/poland/data.html>）を基に東京都教育委員会が作成

【この資料の学校での活用例】

- 朝礼の講話
- 関連する授業や道徳の授業の導入での話題提供やまとめの説話
- 学校だよりや学級だよりのコラム
- 学年集会や学校行事等での講話 等

— 今月のテーマ — — 善意は忘れない！ —



施設に收容された孤児たち（大阪）
©日本赤十字社

ポーランドは伝統的な親日国としても有名で、日本と様々な交流を行っています。このような親密な交流は、いつ頃から続いているのでしょうか。

大正6年(1917年)にロシア革命が起きたとき、シベリアには、多くのポーランド系の住民がいました。彼らはこの革命に伴う内戦の際、祖国(ポーランド)の独立を目指して戦い、多数の犠牲者を出し、その子供たちの多くは孤児となって極寒のシベリアを流浪することとなりました。さらに、大正7年(1918年)11月に独立を得たポーランドは、ソビエト政府と戦争を開始したため、混乱の中で親を失ったポーランド人孤児は、飢餓と疫病の中で悲惨な状態にありました。

このとき、他の国が顧みなかった孤児たちを救ったのは、日本政府と日本赤十字社でした。大正9年(1920年)6月、ポーランド児童救済会のビルケウイッチ会長は日本の外務省を訪れてポーランド孤児の惨状を訴え、援助を求めました。

外務省は、直ちにこの救済事業を日本赤十字社に打診し、翌月には、シベリア出兵中の日本軍によって第1次救済活動が開始されました。この第1次救済活動では孤児375名が、大正11年(1922年)の第2次救済活動では390名が、シベリアから日本国内に移送され、手厚く看護された後、ポーランドへと送り届けられました。

なお、救済された孤児が、帰国後、ポーランドで組織した「極東青年会」は、日本との交流に貢献し、現在も両国親善の象徴とされています。

この日本の善意ある行動をポーランドの人々は忘れませんでした。平成7年(1995年)に起きた阪神・淡路大震災の際には、日本の震災児童20余名を二度にわたってポーランドに招待し、ポーランドの家庭で受け入れ、温かくもてなしてくれました。



©日本赤十字社

日本の收容施設で食事する孤児たち

当時、ポーランドの孤児の介護を指揮した荻原タケさんは、大正9年(1920年)に、第一回フローレンス・ナイチンゲール記章を受賞し、世界から、その功績が高く評価されました。国と国との距離は遠いですが、当時の支援に対するポーランドの人々の感謝の気持ちは強い結び付きとなって、今も、良好な関係として交流が継続しているのです。

※「わかる! 国際情勢 Vol.22 ポーランドという国」(外務省ホームページ <http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/wakaru/topics/vol22/>)、「外交史料 Q&A 大正期」(外務省ホームページ http://www.mofa.go.jp/mofaj/anna_i/honsho/shiryo/qa/taisho_03.html#0908_02)及び「展示紹介 Vol.10」ポーランド孤児救済」(日本赤十字社ホームページ <http://www.jrc.or.jp/plaza/display/vol10/>)を基に東京都教育委員会が作成

日本の伝統・文化紹介

【雅楽（ががく）】



雅楽（ががく）は、「宮中の音楽」「神社の音楽」というイメージが強いと思いますが、今日では、宮内庁楽部の公開演奏会や国立劇場、音楽ホール等でのコンサートなどで聴くことができます。また、神社での「舞

楽（ぶがく）」（雅楽の伴奏で舞を舞うもの）の奉納なども見るすることができます。雅楽で用いられる「笙（しょう）」という和楽器は、テレビ等で演奏している様子を見たことがある人もいるかもしれません。

雅楽は、奈良時代までに伝わってきた東アジア諸国の楽舞と、日本の固有の起源をもつ歌舞が源流となっています。

江戸時代、徳川幕府は、日光や江戸城内に雅楽を奏でる楽人を置きました。ただし、将軍家の大きな催しを行う際は、関西から楽人を呼び寄せ、日光や江戸城内で舞楽を演じさせました。

当時、雅楽は、江戸の庶民にとっては、ほとんど接する機会のない、非常に珍しい音楽だったそうです。

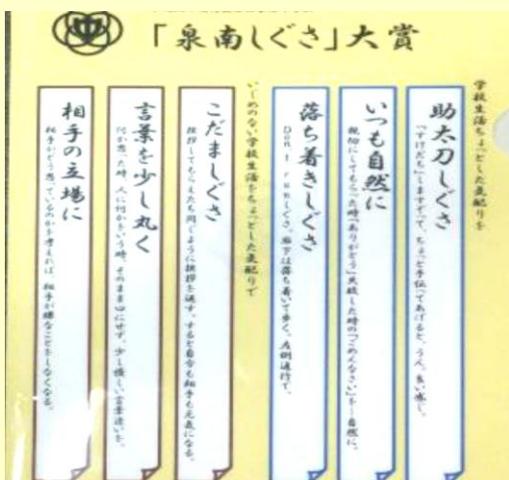


【笙】

特色ある取組

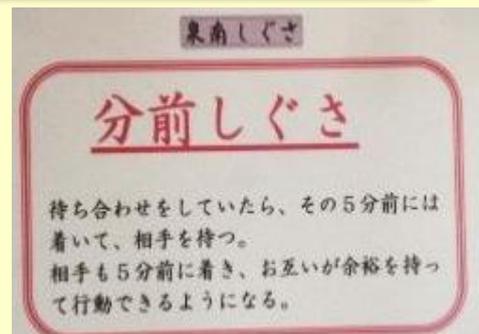
【杉並区立泉南中学校】

「泉南しぐさ」の創作



「泉南しぐさ」とは？
「温かい人間愛の精神を深め、他の人々に思いやりの心をもつ」をテーマとして、他者を思いやる心を日常的な行為（しぐさ）として、生徒が主体となって創作したものです。

校舎内の様々な場所に「泉南しぐさ」を掲示し、日頃から意識して行動できるようにしています。



伝統・文化に関するイベント等

★都立中央図書館

- 企画展示「東京に集う聖火ー1964年東京オリンピック聖火リレーをたどるー」

☆ 平成27年8月31日(月)まで(午前10時から午後5時30分まで)

☆ 4階企画展示室

【休館日 7月17日(金)、8月6日(木)・21日(金)】

1964年東京オリンピックにおける聖火リレーに焦点を当て、聖火にまつわるエピソードや当時のにぎわいのほか、聖火が駆け抜けた地域の名所や歴史・文化などを紹介します。貴重な図書館資料をはじめ、1964年の東京オリンピックで実際に使われたトーチの実物や、開会式でファンファーレを奏でたトランペットなど、幅広い資料を集めて紹介しています。



- ミニ展示ー2020年へ向けての応援シリーズ「カザンからリオ五輪へ」

☆ 平成27年8月5日(水)まで

☆ 3階人文科学系資料・閲覧室入口

世界水泳が、7月24日(金)から8月9日(日)までロシアのカザンで行われます。競泳個人種目で優勝すると、リオデジャネイロ五輪代表に内定します。2020年に向け、注目の水泳選手を雑誌で紹介します。

- ミニ展示「あの日、あの時、あの時代」

☆ 平成27年9月30日(水)まで

☆ 3階人文科学系資料・閲覧室

第二次世界大戦の終戦から今年で70年を迎えることから、大戦中や戦後の復興に関わる資料を展示しています。当時の日本の様子等を写真集などでご覧いただけます。



- 美術情報棚展示「アール・デコの世界」

☆ 平成27年8月5日(水)まで

☆ 3階人文科学系資料・閲覧室

東京都庭園美術館の展覧会「アール・デコの邸宅美術館」に関連し、アール・デコに関する図書を紹介しています。ファッションや建築等、多様な分野にまたがる装飾美術をお楽しみください。

※本資料に対する御意見・御感想や、本資料の活用実践等がありましたら、以下担当へ御連絡ください。今後の資料作成の参考とさせていただきたいと考えております。

【担当】

東京都教育庁指導部指導企画課

03-5320-6869